

庭が、 人生を語り始める場所。

最勝寺 住職 渡辺明照 Watanabe Myosho



最勝寺の住職、渡辺さんは、庭を通して「生きること」と「見送ること」を伝え続けています。「十三仏の山」と呼ばれる庭園は、美しい祈りの庭です。核家族化が進み、昔からの伝承が途切れ、命の尊さを知る弔いが易きに流れる今、寺が人生の意味を学ぶという役割を担いたいという想いから生まれました。

三途の川をはじめとする四つの川を渡し、さまざまな難関を乗り越える往生と成仏の道行きをたどるように散策できる構成となっています。

30年前から植え続けてきた楓が、時を重ねて、今では寺の秋の風景をつくっています。

渡辺さんは言います。「寺は、せわしない日常から少し離れられ、心が休まる場所であるべきです」と。苔の上も歩いていい。子どもが遊んでもいい。

人が集い、安らぎ、やさしくなれる。その時間こそが、寺の役目なのです。

■ 渡辺さんのおすそわけは、
お寺の歴史や庭園の物語について伝えることです。

連絡先は、TEL.0296-24-4639

最勝寺 筑西市下平塚57